

平成26年度 自己点検・評価に係る報告書(教育に関する活動状況の自己点検・評価)

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署		
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置								
教育に関する事項	教育課程の編成等	<p>15才人口の減少傾向や地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。</p> <p>○15才人口の減少傾向や産業界のニーズ動向、また地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。</p> <p>○産業界のニーズ・動向に合わせ、高専機構本部の動きと運動して、本科や専攻科の改組を検討する。</p>	<p>○機構理事長ヒアリング(6月実施)や現況調査(5月実施)等に際して、10年後の15才人口の減少傾向や産業界のニーズ動向、また地域の実情に合わせて学科構成の見直し・専攻科の整備・充実を検討した(将来構想を模索するため産学金官・同窓会・後援会等の有識者からなる教育懇談会を6月より複数回実施済)。</p> <p>○産業界のニーズ・動向に合わせ、高専機構本部の動きと運動して、本科や専攻科の改組を検討した(6月～教育懇談会を複数回実施済)。</p> <p>○今年度中に上記教育懇談会の打合せ結果をまとめると共に、来年度に向けて将来構想委員会を発足する予定。</p> <p>○産業界のニーズ・動向も含めた校長を中心としたWGIによるビジョン作りに合わせて、高専機構本部の動きとも運動して、本科や専攻科の改組・充実を現在も検討中である。</p> <p>○専攻科カリキュラム改訂に関わる学生への周知のためのガイダンスを年度当初に実施した。また、学位授与機構による特例適用専攻科認定に対する教員の資格審査を受審し、全ての専攻で審査に合格した(10月実施済)。これに基づき新たな学位内部審査の手順と学位申請のあり方を来年度に向けて準備作業・資料作成・実施を行って行く。</p>	<p>○国立高専機構としての高専の将来像に関わる検討状況は、外部機関である「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する有識者会議」の方向性を踏まえて深慮する必要があるため、今年度最終まで判断を許さない状況にある。</p>	<p>○本校としては、今年度中に上記教育懇談会の打合せ結果をまとめると共に、来年度に向けて将来構想委員会を発足し具体的対策案の策定にかかる予定である。</p>	達成した	運営会議 教務部 専攻科	
		<p>定期的に、卒業生・修了生及び採用実績のある企業にアンケートを実施し、産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科・専攻科の大括り化等について検討を行う。</p>	<p>産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科・専攻科の大括り化等について検討を行う。</p> <p>○定期的(原則:1回/5年)に、卒業生・修了生および採用実績のある企業にアンケートを実施しその結果を纏め、点検・評価委員会や運営会議にて審議の後、各部署における改善への具体的な取り組みを促す。</p>	<p>○定期的アンケートを念頭に、認証評価訪問調査・JABEE中間審査実地審査に備えた振興協力企業アンケート(卒業・修了生輩出先)を本年度実施し、教育目標に対する達成状況調査を行った(6月実施済)。</p> <p>○上記アンケート結果として、準学士課程卒業生に対して数%程度の学習・教育目標に於けるコミュニケーション不足の意見も寄せられが、概ね4年制大学卒業生と同等の実力評価が成された。また、専攻科修了生に対しては、ほぼ100%が4年制大学卒業生と同等以上の実力があるとの評価を得ることができた。さらに、これらの結果を運営会議で報告を行い、次年度の企業アンケートに向けた設問内容などに反映することとした(8月実施済)。</p> <p>○平成27年度実施予定(原則:1回/5年)の卒業生・修了生および採用実績のある企業に対するアンケートにおいて、設問改定や送り先調査などの準備を行った(10月実施済)。</p> <p>○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、教職員の95%がJABEEについて意識して教育活動を実施していることを確認した。平成25年度の89%から向上が見られた(2月実施済)。</p> <p>○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、専攻科2年生の70%以上、専攻科1年生は100%および本科5学年の50%以上がJABEEについて認識していることを確認した(2月実施済)。</p>			計画を上 回って達成した	運営会議
		<p>本科入学時の基礎学力を把握するための試験を実施する。</p> <p>教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」について学習到達度試験を実施し、試験結果を分析し、学生の学習到達度を向上させるための教育課程や教授方法の改善に役立てる。</p> <p>本科及び専攻科でTOEICを義務付け、その結果を基に英語力の強化について検討する。</p> <p>英語を科目としてだけではなく、実際のコミュニケーションのツールでもあるということ意識させるような大会等への参加を促し、国際的な研修、アカデミックな講習会などへの参加を奨励する。</p>	<p>入学時の基礎学力を把握するための試験や学習到達度試験を実施し、結果の分析を行う。また、英語については、TOEICを義務付け、英語力を向上させる。</p> <p>○入学直後の本科新入生を対象に基礎学力試験を実施する。</p> <p>○学習到達度試験(「数学」、「物理」)を実施し、教育課程や教授方法の改善に役立てる。</p> <p>○本科3年生にTOEIC受験を義務付ける。</p> <p>○本科4年生で開講する新しい英語選択科目の内容について検討する。</p> <p>○実用英語検定、工業英語検定、TOEICスコアなどで条件を満たした学生に単位認定を行う。</p> <p>○TOEICスコアを分析し、英語力を伸張させる教授法について検討する。</p> <p>○外国語科と専門科目担当者間で英語力の伸張に関して情報交換する。</p> <p>○昨年度の学習到達度試験の結果に基づき、学生の学習到達度が向上する教育を検討し、実施する。</p> <p>○英語弁論大会、全国プレゼンテーションコンテスト等への参加を奨励する。</p> <p>○TOEIC試験等の資格試験への受験を奨励し、複数回の受験を促し、結果の向上を記録してフィードバックする体制を検討する。</p> <p>○低学年(1～3年生)において、授業の中で定期的に語彙テストを行い、学年末に学年ごとの英単語コンテストを実施する。</p> <p>○国際大会等に参加する学生のプレゼン等の英語指導を専門学科の教員と連携して行う体制を検討する。</p>	<p>○入学直後の本科新入生を対象に基礎学力試験を実施した(4月実施済)。</p> <p>○平成27年1月に学習到達度試験(「数学」、「物理」)を実施し、教育課程や教授方法の改善に役立った。</p> <p>○本科3年生にTOEIC受験を義務付けている。</p> <p>○本科4年生で開講する新しい英語選択科目の内容について検討した。</p> <p>○実用英語検定、工業英語検定、TOEICスコアなどで条件を満たした学生に単位認定を行った。</p> <p>○TOEICスコアを分析し、英語力を伸張させる教授法について検討した。</p> <p>○英語力向上のため、外部講師による初級および中・上級のTOEIC講座をスタートさせた(10月～2月実施済)。</p> <p>○外国語科と校長、教務主事を含めて外国語科教員と英語教育懇談会を実施し、今後の英語教育の在り方について議論した(5月実施済)。</p> <p>○外国語科と専攻科委員間で英語力の伸長に関して意見交換した(9月実施済)。</p> <p>○昨年度の学習到達度試験の結果に基づき、学生の学習到達度が向上する教育を検討した。</p> <p>○英語弁論大会、全国プレゼンテーションコンテスト等への参加を奨励している。</p> <p>○TOEIC試験等の資格試験への受験を奨励している。</p> <p>○低学年(1～3年生)において、授業の中で定期的に語彙テストを行い、学年末に学年ごとの英単語コンテストを実施している。</p> <p>○外部講師による初級および中・上級のTOEIC講座の受講者数が伸び悩んでいるため、新たな開講・実施方法を策定し来年度に向けてスタートさせる予定である(なお、参加者の満足度については初級:78%、中・上級:91%であった)。</p> <p>○専攻科1学年のTOEICスコアの一覧表を作成し、データベースに追加した(3月実施済)。</p> <p>○科目間連絡会を実施し、学習支援方法の見直し、数学・物理・英語科目の教育内容について意見交換を行った(5月実施済)。</p> <p>○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、全教員の78%が普段の教育活動の中で他の教員や科目との科目間連携を意識していることを確認した。さらに、具体的な科目間連携の事例の集約も行った(2月実施済)。</p>		達成した。	教務部 専攻科 教養教育科	

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>学生・教職員アンケートを実施し、その結果を纏め各部署における改善に役立てる。 定期的に、卒業生・修了生及び採用実績のある企業にアンケートを実施し、各部署における改善に役立てる。 在校生に授業評価アンケートを実施する。 米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)を活用し、学校改善のため、卒業生との情報交換を行う。</p>	<p>卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。 ○学生・教職員アンケートを毎年実施しその結果を纏め、点検・評価委員会にて審議・承認の後、各部署における改善への具体的取り組みを促す。また、この調査結果を校内ホームページに公開する。 ○平成27年度に控えた、卒業生・修了生および採用実績のある企業に対するアンケート実施に関する準備業務を行う。 ○在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開する。 ○校内ホームページで公開された授業評価アンケートの結果に対し、授業担当教員がコメントを書き込めるようにする。 ○授業評価の結果を基に、優れた教育実践例を選出し、スキルを磨くためのFD研修会をできるだけ企画する。 ○学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開する。 ○米子高専同窓会総会及び支部(関西・中部)総会、更に米子高専首都圏同窓会総会などと併せて卒業生との情報交換会を実施する。 ○構築中の米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)の人的基盤である同窓会組織の整備・充実及びYnct-netポータル・サイトなどSNSの利用を推進する。</p>	<p>○平成25年度の学生・教職員アンケートを実施しその結果を纏め、点検・評価委員会にて審議・承認の後、各部署における改善への具体的取り組みを促した(4月実施済)。また、この調査結果を校内ホームページに公開した(4月実施済)。 ○平成25年度の企画部学生アンケート内で学生から指摘のあった図書館の早期リニューアルオープン、体育館の床仕上げの改修などは、平成26年度中に整備が終了し、その効果については平成26年度と同アンケートで使用状況や使いやすさを確認できた。図書館は全学生の58%が利用し、94%が本が充実していると回答している。運動施設は全学生の95%が使いやすい、まあまあ使いやすいと回答している。(2月実施済) ○平成26年度企画部学生・教職員アンケートを実施した。(2月実施済)この結果は、平成27年度4月の点検・評価委員会で報告を行ったのち、詳細な調査報告書を校内ホームページに公開予定である。 ○定期的アンケートを念頭に、認証評価訪問調査・JABEE中間審査実地審査に備えた振興協力企業アンケート(卒業・修了生輩出先)を本年実施し、教育目標に対する達成状況調査を行った(6月実施済)。 ○当該アンケート結果として、準学士課程卒業生に対して数%程度の学習・教育目標に於けるコミュニケーション力不足の意見も寄せられ、概ね4年制大学卒業生と同等との実力評価が成された。また、専攻科修了生に対しては、ほぼ100%が4年制大学卒業生と同等以上の実力があるとの評価を得ることができた。さらに、これらの結果を運営会議で報告を行い、次年度の企業アンケートに向けた設問内容などに反映することとした(8月実施済)。 ○平成27年度実施予定(原則:1回/5年)の卒業生・修了生および採用実績のある企業に対するアンケートにおいて、設問改定や送り先調査などの準備を行った(10月実施済)。 ○在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開した(3月実施済)。 ○授業評価アンケート結果に対し、授業担当教員がコメントを書き込めるようにした(3月実施済)。 ○高専機構による「英語授業講義力強化プログラムに参加した教員による報告会」を実施した(6月、2月実施済)。 ○学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開した(11月実施済)。 ○第2回米子高専同窓会・中部支部(中部地区卒業生)－米子高専交流会を開催(8月)し、教育懇談会(卒業生対象)を開催した(11月実施済)。 ○同窓会組織の整備・充実に向け総会・役員会に参加し意見交換を行う(4月－11月)と共に、Ynct-netポータル利用推進のため、認証システムを再構築(9月)し、留学生/留學生OB対象Facebookページを立ち上げ(1月)、Ynct-netポータルとFacebookページとの連携についても検討を始めた(2月)。</p>			<p>計画を上 回って達成し た</p>	<p>企画部 教務部 専攻科 国際交流</p>
<p>各種FDなどを活用し教員の能力向上を目的とする研修を実施する。また、本校以外で実施される研修等にも教員を積極的に派遣する。 FD活動の一環として、採用2年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力の向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観等を実施する。</p>	<p>ファカルティ・ディベロップメントなど教員の能力向上を目的とした研修を実施する。 ○授業評価結果が優れた教員を選出し、新任教員の授業参観を実施する。 ○FD活動の一環として、採用2年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施する。 ○採用2年以内の新任教員の居室として合同教員室および室長を配置し、導入教育の強化を図る。</p>	<p>○授業評価結果が優れた教員を選出し、新任教員の授業参観を実施した(4月実施済、現在も継続中)。 ○FD活動の一環として、採用3年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施した(4月実施済、現在も継続中)。 ○採用2年以内の新任教員の居室として合同教員室および室長を配置し、導入教育の強化を図った(4月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、FD研修のテーマ設定および内容について、教職員の79%が適切であると考えていることを確認した。特にハイパーQ-Uアンケートや特別教育支援に関するFD研修会の内容については、教職員の85%がこれらについての教育上の意識が向上したと回答し、教員を中心に58%が教育改善やクラス経営にも役立っていると回答しており、一定の効果があることを確認した(2月実施済)。</p>			<p>達成した</p>	<p>運営会議</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>モデルコアカリキュラムの導入を進める。 「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集などを基に、教育方法の改善を促進する。 ICTを活用した教材及び教材管理システムの利活用について検討する。 本科低学年の学習支援を実施する。</p>	<p>モデルコアカリキュラムの導入を進めるとともに、エンジニアリングデザイン教育を推進し、ICTを活用した教材及び教材管理システムの利活用を促進する。 ○モデルコアカリキュラムに関する研修会などに参加し、モデルコアカリキュラムに対応するカリキュラムの検討を行い、導入の準備を進める。 ○「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集などを基に、教育方法の改善を促進する。 ○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育環境の整備を継続する。 ○外部資金や企業人材を活用した教育プログラムを実施し、教育内容の充実を図る。 ○専攻科生TAの活用を含めた本科低学年の学習支援を実施する。 ○新任教員に対し、ベテラン教員による双方向授業参観を実施し、講義力アップを図る。 ○教員による編入学生への学習支援を実施する。 ○モデルコアカリキュラムの導入の検討に伴いシラバスの修正を行う。</p>	<p>○モデルコアカリキュラムに関して高専教育フォーラム、平成26年度高等専門学校改革推進事業「Webシラバス」会議などに参加し、モデルコアカリキュラムに対応するカリキュラムの検討を行い、導入の準備を継続している(8月、11月実施済)。 ○継続して「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集などを基に、教育方法の改善を促進した(3月にFD講演会を実施した)。 ○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育環境の整備を継続した(3月に学生用情報端末を更新した)。 ○外部資金や企業人材を活用した教育プログラムを実施し、教育内容の充実を図った(10月～実施済)。 ○数学、物理についてTAによる本科低学年の学習支援方法を見直し、実施した(7月～2月実施済)。 ○新任教員に対し、ベテラン教員による双方向授業参観を実施し、講義力アップを図った(5月、10月～実施済)。 ○留学生および編入学生へ学習支援の必要性について担任等に連絡し、教員による学習支援を実施した(7月実施済)。 ○モデルコアカリキュラム導入について議論し、専門分野別の達成レベルについて議論した。 ○高専改革推進経費のWEBシラバスの担当校として、研修会などの参画、入力準備を行った。 ○建築学科ではモデルコアカリキュラムの学習到達目標別に各科目の到達レベルを設定し、全体を俯瞰し、レベル調整を行った。 ○建築学科ではWEBシラバス入力のための勉強会を学科会議内、分野別に行った。 ○平成25及び26年度の企画部学生アンケート結果から、情報教育センター内のPC端末の更新を求める回答が多くあり、平成27年度当初にPC端末の設備更新を実施する(3月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケート結果から、授業評価アンケート結果を踏まえた教員各自の教育活動への自己評価について設問し、74%の教員が良好もしくはおおむね良好であると自己評価している。さらに授業評価アンケート結果をふまえた次年度への授業内容や授業方法の改善内容についての具体的な内容も集約した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケート結果から、授業内容、教材、教授技術等についての継続的な工夫・改善状況について設問し、88%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケート結果から、創造性を高める学習上の工夫の実施状況について設問し、54%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した(2月実施済)。</p>			達成した	教務部 キャリア支援室
<p>高専機構と連動し、「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるとともに、学生基本情報共通化・集約化・合理化を推進する。 ○高専学生情報統合システム」整備を計画的に進める。 ○学生基本情報共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。</p>	<p>「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるとともに、学生基本情報共通化・集約化・合理化を推進する。 ○「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進める。 ○学生基本情報共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。</p>	<p>○年度末に向けて「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるため、「学生情報統合システム導入 中国地区ブロック会議」へ要望事項などをあげるとともに、会議に参加した(5～6月実施済)。 ○学生基本情報共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進した。</p>	<p>○高専機構本部からの情報が少なく、学生基本情報の共通化・集約化については、あまり進んでいない。</p>	<p>○今後も高専機構本部と情報を共有して学生基本情報の共通化・集約化を推進する。</p>	達成した。	教務部 キャリア支援室
<p>JABEE認定プログラム更新のための継続審査を受審し、教育の質の向上に努める。 在学中の資格取得を奨励する。</p>	<p>JABEE認定プログラム更新のための継続審査を受審し、教育の質の向上に努めるとともに、在学中の資格取得を奨励する。 ○平成26年度にJABEE認定プログラム(複合システムデザイン工学P)の中間審査を受審し、継続的な教育の質の向上に努める。 ○特例適用専攻科の認定申請を行う。 ○資格試験の案内パンフレットを作成し、在学生に配布する。 ○在学中の資格取得状況を調査し、その結果を公表する。</p>	<p>○平成26年度にJABEE認定プログラム(複合システムデザイン工学P)の中間審査を受審し、継続的な教育の質の向上に努めた(10月実施済)。 ○平成26年度にJABEE認定プログラム(複合システムデザイン工学P)の中間審査を受審し、継続的な教育の質の向上に努めた(11月実施済)。 ○特例適用専攻科の認定申請を行い全専攻で特例適用が認定された(5月、10月補正、実施済)。 ○6月に資格ガイドブックの作成、8月に配布を行い、資格取得の支援をおこなった。 ○年度末に資格取得者の調査を行い、彦名通信に公開した。 ○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、教職員の95%がJABEEについて意識して教育活動を実施していることを確認した。平成25年度の89%から向上が見られた(2月実施済)。 ○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、専攻科2年生の70%以上、専攻科1年生は100%および本科5学年の50%以上がJABEEについて認識していることを確認した(2月実施済)。</p>			達成した	教務部 専攻科 キャリア支援室 JABEE委員会
<p>学校の枠を超えた学生の交流活動を推進・奨励する。</p>	<p>学校の枠を超えた学生の交流活動を奨励する。 ○中四国専攻科研究交流会等に参加する。 ○他高専学生寮との寮生会交流会を実施する。</p>	<p>○中四国専攻科研究交流会等に参加した(4月実施済)。 ○阿南高専との寮生会役員交流会を実施した(11月実施済)。</p>			達成した。	専攻科 寮務部

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
教育 の 質 の 向 上 及 び 改 善 の た め の シ ス テ ム	エンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の総合データベースを基に、特色ある教育方法の改善を検討する。 ○自学自習、まちづくり活動、技術プロジェクト活動などを通じて、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の育成を推進する。 ○エンジニアリングデザイン教育に関するFD研修会の開催を検討する。 ○総合データベースを基に特色ある教育方法の実践例を分析し、今後の対応を検討する。 ○技術プロジェクト活動やまちづくり活動を通して、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の開発が図れるように教育環境を改善・整備する。	エンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の総合データベースを基に、特色ある教育方法の改善を検討する。 ○自学自習、まちづくり活動、技術プロジェクト活動などを通じて、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の育成を推進する。 ○エンジニアリングデザイン教育に関するFD研修会の開催を検討する。 ○総合データベースを基に特色ある教育方法の実践例を分析し、今後の対応を検討する。 ○技術プロジェクト活動やまちづくり活動を通して、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の開発が図れるように教育環境を改善・整備する。	○継続して自学自習、まちづくり活動、技術プロジェクト活動などを通じて、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の育成を推進した。 ○エンジニアリングデザイン教育に関するFD研修会を実施した(3月実施済)。 ○総合データベースを基に特色ある教育方法の実践例を分析し、今後の対応を検討している。 ○空活(あきや活用)プロジェクトで、学生と地域とのコミュニケーションを図り、実際に中心市街地に学生が住み、プロジェクトを推進した。実際に空きや活用のイベントとして、外部の講師を招き講演会やワークショップを行った。また、実際に居住した学生が、空きや活用の実践事例として論文としてまとめ、対外的に発表した。さらに鳥取芸術祭のイベントとも連携し活動した。 ○全国デザコンで境港市にある江島大橋を題材に、観光の定着をはかる提案を行い、優秀賞を獲得した。またその提案をするに当たり境港市の行政と打合せを行いつつ進めた。デザコン案の他に、境港市市民会館および周辺施設の整備に関する整備計画立案に学生・建築学科教員も加わり、行政・市民団体と意見交換を行った。 ○平成26年度企画部教職員アンケート結果から、授業評価アンケート結果を踏まえた教員各自の教育活動への自己評価について設問し、74%の教員が良好もしくはおおむね良好であると自己評価している。さらに授業評価アンケート結果をふまえた次年度への授業内容や授業方法の改善内容についての具体的な内容も集約した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケート結果から、授業内容、教材、教授技術等についての継続的な工夫・改善状況について設問し、88%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケート結果から、創造性を高める学習上の工夫の実施状況について設問し、54%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した(2月実施済)。			達成した	教務部 専攻科
	各界有識者による本校の評議員会を組織・開催し、外部評価を実施するなど多角的な評価の取り組みによって教育の質の保証がなされるように留意する。 大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を計画的に受審し、その評価結果を共有する。	多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように留意する。 ○原則として毎年度ごとに、各界有識者により組織した本校の評議員会を開催し外部評価を実施することで教育の質の保証を検証し、その維持・向上に努める。 ○平成26年度に大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受審し、その評価結果を共有する。	○原則として毎年度ごとに、各界有識者により組織した本校の評議員会を開催し外部評価を実施することで、教育の質の保証を維持・検討した(3月に実施済)。 ○平成26年度に大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受審した(10月実施済)。また、その暫定評価結果を運営会議・学科長会議等を通じて共有を図った(11月実施済)。さらに、大学評価・学位授与機構より評価結果(案)の提示を1月末に受け、これに対する意見書・連絡書の提出を運営会議の承認を経て行った(2月末実施済)。最終評価結果をもって、上記3月に実施の評議員会にて報告・審議を行った。 ○上記評議員会からの特段の指摘事項は無く、機関別認証評価結果やJABEE中間審査に対する優れた取組や良好な評価結果に対し多くの賛辞を頂戴することができた。			達成した	運営会議 企画部
	インターンシップ情報の充実を図るとともに、可能な限り学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう、産業界等との連携を推進する。また、地域産業界との連携による共同教育体制を検討する。	学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう産業界等との連携を推進するとともに、地域産業界との連携による共同教育体制を検討し充実を図る。 ○インターンシップ情報の充実を図る。 ○県産業振興機構、ふるさと定住機構、米子高専振興協力会等と連携し、地域産業界と連携した共同教育を検討する。	○4年担任および進路指導教員の協力も得ながら、5月中旬から6月中旬にかけてデータの更新・追加などインターンシップ情報の充実を行い、学生のインターンシップ活動を支援した。 ○県産業振興機構、県経営者協会、ふるさと定住機構等と協力しインターンシップ事業の促進と充実をはかった(適宜)。 ○インターンシップ先を確保するために、県行政機関などと打ち合わせする他、国の就活ガイダンスなどを活用した(適宜)。 ○9月にオープンファクトリーを実施し、本科低学年生のキャリアパスの育成に役立てた。 ○インターンシップに関する講演会を、4年生に対しては4月に、3年生に対しては12月に開催し、インターンシップの動機付けと意義の再確認を行った。 ○インターンシップ前(8月)にガイダンスを実施し、インターンシップの意義の再確認と諸注意を行った。			達成した	教務部 キャリア支援室

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>最新の技術トレンドを取り入れた教育体制の構築・強化を図る。 鳥取県、近隣自治体、その他産業振興組織等との連携を強め、米子高専振興協力会との連携活動や卒業生ネットワークの構築・運営を通して継続的に地域の産業振興に貢献するとともに、地域共同教育を推進する。</p>	<p>最新の技術トレンドを取り入れた教育体制の構築・強化を図り、地域の産業振興に貢献するとともに、地域共同教育を推進する。 ○企業技術者による最先端技術の講演・授業を実施する。 ○地域企業の課題を卒業研究・専攻科特別研究等に取り入れ、地域企業との共同教育を行う。 ○鳥取県EV人材育成カリキュラムなどを活用した授業を実施する。 ○第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行う。 ○学科同窓会を立ち上げ、そのネットワークづくりを行う。 ○非常勤講師として活用することを目的として企業技術者/研究者の調査を行う。 ○講演会や公開講座の講師として活用することを目的として企業技術者/研究者の調査を行う。 ○企業人材や外部の専門家を活用した授業の継続と充実を図る。 ○地域の建築家、技術者、行政機関職員などを非常勤講師に迎え、地域共同教育を実施する。 ○年度当初に、非常勤教師と常勤講師の意見交換会を設け、授業評価アンケートに対するFDを行う。</p>	<p>○高専機構の「企業技術者等活用プログラム」によって企業技術者を招聘し、各専門学科等において先端的トピックを紹介する講演・授業を11件実施した(その都度実施済)。 ○高専機構の「企業技術者等活用プログラム」を活用し、地域企業のニーズにもとづくテーマで卒業研究等を5、実施した(その都度実施済)。 ○鳥取県EV人材育成カリキュラムのうち、建築学科で「第18コマ:電気自動車をもふえた次世代のまちづくり」を活用した講義を実施した(2月実施済)。 ○機械工学科では第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行った。 ○機械工学科では今後の授業改善を目的とする教育懇談会(10月17日)を開催し、教育と実践(企業業務)に関する情報交換を行った。 ○学科独自の同窓会(米子工業高等専門学校電気工学科(電気情報工学科)同窓会)を立ち上げて活動を開始した。 ○非常勤講師として活用することを目的として工業高校の元教諭、大学の元教員を中心に企業技術者/研究者の調査を行った(～12月実施済)。 ○講演会や公開講座の講師として活用することを目的として企業技術者/研究者の調査を行った(7月実施済)。 ○後期から企業人材による授業を実施し、アンケートによる影響評価を行った(その都度実施済)。 ○地域企業2社、環境大学と共同で、鳥取発スマートハウス開発研究会を立ち上げ、地域の風土を活かしたデザイン、地震時に強い免震構造の計算・設計法の確立、大手メーカーの動向調査などを、卒業研究の一環として行った。今年度末に製品の発表会を企画中である。 ○年度当初に、非常勤教師と常勤講師の意見交換会を設け、授業評価アンケートに対するFDを行った(5月実施済)。</p>			達成した。	地域共同 テクノセンター 各学科
<p>国立高等専門学校機構本部と連動し、両技術科学大学との連携を推進し、研究・教育の分野で交流を図る。 鳥取大学と連携しながら、継続的に鳥取県西部地域における「知の拠点」となり得る高等教育機関を指向する。 理工系大学との授業及び共同研究の継続と充実を図る。 地元大学との連携を推進する。 大学進学者との懇談会を設け意見聴取を行う等、OBとの連携を通して大学教育との円滑な接続を目指す。 設立から50年経過した高専制度を社会環境の急激な変化に対応させるために、技科大や他高専との連携を軸に専攻科を充実させ、大学工学部卒と異なる個性を持つ技術者の教育並びに地域を中心とする産業界や地方公共団体と連携した研究活動を推進する。</p>	<p>理工系大学との間での連携を検討し、実施する。 ○国立高等専門学校機構本部と連動し、両技術科学大学との連携を推進し研究・教育の分野で交流を図る。 ○本校教員と鳥取大学医学部教員の共同研究を推進する。また、専攻科から鳥取大学医学部大学院への進学を支援する。 ○第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行う。また、理工系大学との共同研究を行う。 ○専攻科から共同研究先の大学院編入までの、教育の継続的なしきみをつくるための方策を検討する。 ○両技科大および地元大学に進学したOBのネットワーク(人脈)を調査・整理する。 ○技科大等との共同研究が可能な分野の検討をする。 ○技科大等と教育・研究の分野で交流可能な会の開催状況を調査する。 ○鳥取大学医学部との医工連携を推進するため、共同研究や専攻科から同医学部大学院への進学を検討する。 ○「三機関が連携・協働した教育改革」における共同研究プロジェクト等を通じて連携を推進する。 ○呉高専と構造系研究交流会を行い、専攻科生・本科生による研究紹介を行い、各校の引率教員が質疑を行い、研究の醸成を行う。 ○豊橋技科大を中心とした、呉・米子の共同研究を行う。 ○鳥取県建築交流会に参加し、地域の高等教育機関における課題について意見交換を行う。</p>	<p>○両技術科学大学との連携を推進し、27年度に長岡技科大に教員を1名派遣することを決定した。 ○豊橋技科大、長岡技科大との三機関連携の今後の取り組みについて原案を作成中。 ○鳥取大学医学部生命科学科との共同研究を実施した(その都度実施済)。 ○専攻科生の鳥取大学大学院医学研究科への進学を支援し、1名が合格した(9月)。 ○機械工学科第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行っている。理工系大学との共同研究を行った。 ○福井大学大学院工学研究科との間で推薦入学に関する協定を締結した(4月実施済)。 ○早稲田大学大学院情報生産システム研究科との間で推薦入試に関する覚え書きを締結した(12月実施済)。 ○長岡技科大のパワーエレクトロニクスに関する研究室と交流を開始した。 ○長岡技科大の超電導材料に関する研究室と交流中である。 ○今年度から長岡技科大の建設系教員交流会に出席し、米子高専建築学科の取組みについて発表した。 ○広島大学生物生産学部付属竹原ステーションにて物質工学科の学生が、宇部高専の学生とともに広島大学生物生産学部の教員の指導のもと体験型の学習「水族セミナー」を受講した(7月、8月実施済)。 ○長岡技科大等との共同研究を行うための具体的な打ち合わせを行った。(2月実施済)。 ○鳥根大学総合理工学部との共同研究を継続中である(その都度実施)。 ○広島大学と干潟再生技術の共同研究を実施した(その都度実施)。 ○技科大等と高専の交流会の開催状況を学科内に随時連絡した(5月～2月)。 ○鳥取大学医学部生命科学科との高専・大学連携を検討している(その都度実施)。 ○「三機関が連携・協働した教育改革」における共同プロジェクトを実施した(その都度実施済)。 ○呉高専と構造系研究交流会を行い、専攻科生・本科生による研究紹介を行った。それについて、各校の引率教員が質疑を行い、研究の醸成を行った(9月実施済)。 ○豊橋技術科学大学との共同研究を実施した(その都度実施済)。 ○鳥取県建築交流会に参加し、地域の高等教育機関における課題について意見交換を行った。 ○本科教員が北陸先端科学技術大学院大学の教育連携アドバイザーに就任した(12月から実施)。</p>			達成した。	教務部 専攻科 各学科

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
	ICT活用教育に必要となる校内ネットワークシステムなどの情報基盤について、環境の整備を推進するとともに、ICTを活用した教育方法の推進・充実を図る。	校内ネットワークシステムなどの情報基盤について、環境の整備を推進するとともに、ICTを活用した教育方法の推進・充実を図る。 ○ICT活用教育に必要となる校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進める。 ○材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てる。 ○講義や実験資料のデジタル化状況を調査し、収集・整理に努める。 ○e-Learningシステムを利用している授業をリスト作成する。 ○Matlabを利用している授業・実験テーマのリスト作りをする。 ○CADソフトの充実と活用を図る。 ○ICTを活用した教育システムに関する教材および運用方法を調査・検討する。 ○CADソフトのネットワーク版への移行を行う。 ○他大学、専門学校、工業高校の建築系学科でのe-ラーニングの導入調査を行う。 ○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育を継続する。	○図書館改修により、授業用の情報端末を設置したメディアラボを供用開始した。(4月)さらに、ICT活用教育に必要となる校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進めている。 ○CBTによる実用英語検定を実施した(11月実施済)。 ○機械工学科では、材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てた。 ○授業用スライドや、自作テキスト等の使用状況を調査中。 ○e-Learningシステムを利用している授業のリストを作成した(2月実施済)。 ○Matlabを利用している授業・実験テーマのリストを作成した(2月実施済)。 ○2年の設計製図でのCADソフトの活用を検討し、実施した(11~2月実施済)。 ○3年生の情報科学IIでは、化学構造式図画ソフトの活用を行っている(その都度実施済)。 ○「情報工学II」においてeラーニングプラットフォームmoodleを使用し、課題の提示や解答の収集、授業資料の配布などに利用した(10月実施済)。 ○物質工学実験において分子モデリングソフトWinmostarを用い、分子長の計算などを行った(5月実施済)。 ○従来から導入している3次元CADのベクターワークスを用い、3次元モデリングを行い、3次元プリンターで造形した。その成果として全国高専デザコンのCAD部門にエントリーした。 ○CALL教室の効果的な運用を検討し、e-ラーニングを活用した教育を継続した。 ○平成25及び26年度の企画部学生アンケート結果から、情報教育センター内のPC端末の更新を求める回答が多くあり、平成27年度当初にPC端末の設備更新を実施する(3月実施済)。 ・平成26年度企画部教職員アンケートから、全教員の72%が教育の中でプロジェクターなどの視聴覚機器を有効に活用していることを確認した(2月実施済)。			達成した	教務部 各学科・科
学生支援・生活支援等	メンタルヘルスに係る知識の普及のための講習会等を実施し、学生支援・生活支援の質の向上と充実を図る。	メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の質の向上と充実を図る。 ○メンタルヘルス関係の講習会を実施する。 ○特別支援教育士をめざす教員の支援をする。	○学年ごとのメンタルヘルス関係の講演会を5件行った。 ○1名の教員が特別支援教育士の資格を取得した。他に取得準備中の教員の旅費等の支援を行っている。 ○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、FD研修のテーマ設定および内容について、教職員の79%が適切であると考えていることを確認した。特にハイパーQ-Uアンケートや特別教育支援に関するFD研修会の内容については、教職員の85%がこれらについての教育上の意識が向上したと回答し、教員を中心に58%が教育改善やクラス経営にも役立っていることと回答しており、一定の効果があることを確認した(2月実施済)。	○学生のメンタルヘルス向上に関し、保護者との連携を強化する必要がある。	○入学式後の学生相談室の紹介、広報誌(彦名通信)で保護者と学生相談室の関係の必要性を訴える。	達成した。	学生部 学生相談室
教育環境の整備・活用	施設・設備の点検評価を行い、施設マネジメントの充実を図ることで、実験・実習や教育用の設備の更新、校内の環境保全、ユニバーサルデザインの導入、環境に配慮した施設・設備のメンテナンスを計画的且つ的確に実施し、安全で快適な教育環境の整備を推進する。	施設・設備の点検・評価を行い、施設マネジメントの充実を図る。 ○各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討する。 ○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の計画的な整備・充実を図る。 ○キャンパスマスタープランに基づく中長期的な施設の整備を図る。 ○施設/パトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。 ○創立50周年記念事業の一環として交流プラザを開設し、教育環境の整備を図る。	○各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討した(6月実施済)。今後用途変更も含め、施設再利用(将来計画)の検討をインフラ整備検討委員会WGを組織し、引き続き検討中である。 ○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の計画的な整備・充実を図った(5月~実施中)。 ○キャンパスマスタープランに基づく中長期的な施設の整備を図った(11月~実施中)。 ○施設/パトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施した(4月~実施中)。 ○創立50周年記念事業の一環として交流プラザを開設し、教育環境の整備を図った(4月実施済)。 ○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、全学生の88%が教室を使いやすいと回答し、同様に97%の学生が実験実習室も使いやすいと回答していることを確認した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、全学生の58%がリニューアルオープンした図書館を利用したことがあり、94%の学生は図書館の本が充実していると感じていることを確認した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、全学生の51%がリニューアルオープンした情報教育センター内メディアラボを授業外でも利用したことがあることを確認した(2月実施済)。	○平成26年度に実施した施設/パトロールにおいて、安全性、老朽等注意を要すると診断した箇所について、都度修繕を行っているがその他経年劣化しているものも見受けられ、引き続き整備計画を検討する。 ○50周年を機にキャンパスマスタープランの見直しを行い、第3期中期計画を見通した計画を作成する必要がある。	○引き続き施設/パトロール等を実施し、スペースの有効活用を検討する。 ○企画部主導で実施されている教職員へのアンケートを活用し、意見等を集約する。	達成した	運営会議 事務部 インフラ整備・検討委員会 環境マネジメント委員会
	社会のグローバル化に対応する人材育成を図るため、語学教育に力を注ぐとともに、地域特性を活かした隣国韓国の学術・教育機関との交流を中心として、学生参加型の国際交流を推進する。 海外の大学等高等教育研究機関との国際交流及び学術交流などの交流協定締結を図り、協定に基づく交流プログラムの企画・試行を行う 国際協力機関(JICA、JICEなど)などが行う海外との交流事業への参加を促す。	社会のグローバル化に対応する人材育成を図るため、語学教育に力を注ぐとともに、地域特性を活かした隣国韓国の学術・教育機関との交流を中心として、学生参加型の国際交流を推進する。 ○国際性の涵養のため、LHRなどで国際交流員などの外国人による講演などを実施する。 ○在学生の海外発表や海外語学研修を奨励する。 ○海外インターンシップ制度を周知し、参加を奨励する。 ○海外の大学等高等教育機関との交流協定締結を図り、マレーシア工科大学には在外研究員を派遣して同学との連携強化を検討すると共に、交流協定を締結している南ソウル大学校との交流プログラムに関する連絡・調整及び企画を行う。 ○日本国際協力センター(JICE)や科学技術振興機構(JST)が行う海外との交流事業に関し、情報提供、連絡・調整及び交流プログラムの企画を行う。	○国際性の涵養のため、LHRなどで国際交流員などの外国人による講演などを実施した(本科1年生に対しては11月実施済)。 ○在校生の各種海外発表や海外語学研修を奨励し、ISTS 2014に専攻科生1名、The 7th International Symposium on Surface Scienceに専攻科生1名が参加した。 ○海外インターンシップ制度を周知し、参加を奨励した(本科生は6月、専攻科生は8月実施済)。 ○高専生のための英語キャンプ(8月)、中国地区高専・海外協定校「合同研究発表会 in Korea」(11月)に学生を派遣し、シンガポール技術英語研修(3月)及びテーマセク・ポリテクニク技術英語研修(3月)に学生が応募・採択された。「合同研究発表会 in Korea」では、派遣学生が、Presentation Awardを受賞した。 ○マレーシア工科大学に在外研究員を派遣(4月実施済)し、南ソウル大学校による「海洋漂着ゴミを通して日韓の環境を考える」研修の受入を行った(6月実施済)。 ○海外研修旅行(韓国文化体験研修)及び国際交流に基づく教職員派遣研修を実施した(9月実施済)。 ○JENESYS2.0(JICE)受入に応募した(4月)。			達成した	国際交流 教務部 専攻科

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>海外インターンシップ実施に向け協定校と協議するなど参加する学生を積極的に支援し、継続して推薦する。</p> <p>学生の海外留学支援のため、日本学生支援機構(JASSO)への奨学金申請を行うと共に、学校の国際化やグローバル人材教育推進に資するため国際交流基金の創設・運用と、併せて国際団体が行う海外留学プログラムに関する情報提供を図る。</p>	<p>海外インターンシップ実施に向け協定校と協議するなど、海外での学生の活動を推進する。</p> <p>○海外インターンシップの開催について学生に周知を図る。</p> <p>○交流協定締結校(韓国・南ソウル大学校)との交流プログラムを中心として日本学生支援機構(JASSO)への奨学金申請を行い、環日本海ゲートウェイ拠点校として、他高専とのコラボレーションも推進する。</p> <p>○交流協定締結校(韓国・南ソウル大学校)と、相互インターンシップ実現に向けた協議に入る。</p> <p>○教員や学生の国際的な会議・学会などへの参加により国際性の涵養に役立てる。</p> <p>○国際発表・交流会への学生の参加を推進する。</p> <p>○海外の大学へ教員を派遣する。</p> <p>○海外留学や海外インターンシップ、その他交流を希望する学生を継続的に調査するシステムを作る。</p> <p>○継続的に希望学生を調査するシステムを検討する。</p> <p>○各種プログラムへの学生の参加を積極的に推進する。</p> <p>○各学年の年初のガイダンスで海外インターンシップや留学に関する説明を行う。</p> <p>○海外での学生活動のための予算獲得を行う。</p>	<p>○海外インターンシップの開催について学生に周知を図った(本科生は6月、専攻科生は8月実施済)。</p> <p>○海外留学支援制度(協定受入・協定派遣)奨学金申請(JASSO)を行い(10月)、協定派遣申請が採択された。舞鶴高専海外研修旅行(11月)及び中国地区高専・海外協定校「合同研究発表会 in Korea」(11月)を南ソウル大学校で実施した。</p> <p>○南ソウル大学校との間で研修及び相互インターンシップに関する覚書を締結した(4月)。</p> <p>○北東アジア地域大学教授協議会(7月)に教員を、ISTS2014(11月)に採択学生を派遣し、ISTS2014では派遣学生がPresentation Awardを受賞した。</p> <p>○留學生交流シンポジウム(6月)、鳥取県・東アジア多地域連携青少年スポーツ交流事業(7月)、中国地区高専・海外協定校「合同研究発表会 in Korea」(11月)に学生を派遣し、全国高専サッカー連盟選抜チーム・ドイツ遠征(3月)に選抜学生の派遣を予定している。</p> <p>○国際交流会(南ソウル大学)に学生を参加させた。</p> <p>○マレーシア工科大学に在在研究員を派遣した(4月)。</p> <p>○寮務部で、寄宿舎で生活に必要な知識や技術を身に付けさせる演習を授業に取り入れた。</p> <p>○海外留学、その他交流を随時学生に連絡し、希望学生を調査した(4～2月実施済)。</p> <p>○継続的に希望学生を調査するシステムについて検討した(2月実施済)。</p> <p>○Challenges in Organic Chemistry, Shanghai(イギリス化学会)に参加した(8月実施済)。</p> <p>○IGNITE2014(Penang, Malaysia)に参加した(12月実施済)。</p> <p>○創立50周年記念事業の一環として国際交流基金を創設した(3月実施済)。</p>	<p>E)</p> <p>○国際交流会への参加は、経費の問題もあるが、継続していくことが課題である。</p> <p>授業の取り組みは、まだ始まったばかりであり、しばらく継続して効果を見る。</p> <p>(D)</p> <p>○海外留学や海外インターンシップを希望する学生を継続的に調査するシステムの具体的な方法については未決定。</p>	<p>E)</p> <p>○日頃から学生に国際交流の重要性を説き、動機付けを図っておく。</p> <p>D)</p> <p>○海外留学や海外インターンシップを希望する学生を継続的に調査する具体的な方法を今後決定し、実施する。</p>	<p>達成した</p>	<p>国際交流 教務部 専攻科 キャリア支援室 各学科・科</p>
<p>留学生を受け入れるための整備を推進するとともに、留学生相互の交流を図る取り組みを実施する。</p> <p>留学生の受入拡大や快適な居住環境の確保のため、必要に応じた寄宿舎の整備を図る。</p> <p>国際交流活動の中で日本留学に関する広報を行う。</p> <p>学校の国際化やグローバル人材教育に資するため国際交流基金の創設・運用を図る。</p> <p>留学生教育の整備・充実に向けた検討を行う。</p> <p>留学生の受入推進及び教育環境整備を推進する。</p>	<p>留学生を受け入れるための整備を推進するとともに、留学生相互の交流を図る取り組みを実施する。</p> <p>○留学生控室を整備・充実する。</p> <p>○留学生交流プログラムに参加させる。</p> <p>○女子留学生の増加に対する当該年度の整備計画を策定して整備を実施する。</p> <p>○交流協定締結校、国際協力機関、地方自治体と連携し行う国際交流活動の中で日本留学に関する広報を行う。</p> <p>○米子高専後援会(保護者会)などとの連携や創立50周年記念事業の一環として国際交流基金の創設・運用を図る。</p> <p>○留學生交流促進センターや地方自治体などが行う留學生教育の整備・充実に向けた連絡会に参加する。</p> <p>○留学生のための地元ホスト・ファミリーの実現に向け検討する。</p>	<p>○留学生控室を整備・充実した(3月実施済)。</p> <p>○中国地区留學生交流シンポジウムに留學生1名を参加させた(6月実施済)。</p> <p>○留學生の地域交流活動を推進するため公民館行事へ参加させた(12月実施済)。</p> <p>○「海洋漂着ゴミを通して白韓の環境問題を考える」研修のため来日した南ソウル大学生に対し高専への留学制度に関する説明を行った(6月実施済)。</p> <p>○寮務部で、寄宿舎で生活に必要な知識や技術を身に付けさせる演習を授業に取り入れた。</p> <p>○寮務部で、寄宿舎で生活に必要な知識や技術を身に付けさせる演習を授業に取り入れた。</p> <p>○創立50周年記念事業の一環として国際交流基金を創設した(3月実施済)。</p> <p>○留學生・国際交流担当者研究会(7月)、鳥取県留學生交流推進会議(12月)に教職員を派遣した。</p> <p>○地元ホスト・ファミリーの実現に向けボランティア団体との協議を開始(4月)し、一般家庭との交流(1月、2月)を開始した。</p>	<p>○改修には多額の費用を要することから費用の軽量化を図る方策の検討も必要である。</p> <p>○来年度はさらに女子留學生が2人増える予定であり、共用スペース(補食室、シャワー室、談話室)の確保が問題となっている。</p>	<p>○現状を運営会議等へ報告し、過去の改修及び26年度実施の改修をベースに後年度の取組を検討するための組織を立ち上げる。</p> <p>○当面は、現在の共用スペース(ゆうぎり寮1階療養室1室)を6人で利用する予定である。手狭であった場合には、屋外に専用の補食室を設けるなどの対策を講じる。</p>	<p>達成した</p>	<p>国際交流 教務部 寮務部 事務部</p>
<p>留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を学校の枠を超えて毎年度提供する。</p> <p>留学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を図る。</p> <p>情報セキュリティ運営体制に関し、定期的に第3者機関による監査を実施する。</p> <p>情報セキュリティ対策を適切に推進する。</p> <p>高専統一システムに係る環境整備を推進する。</p>	<p>留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を学校の枠を超えて毎年度提供する。</p> <p>○留学生研修旅行を年1回実施する。</p> <p>○留學生の要望、勉学上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留學生の小規模交流会を実施する。</p> <p>○指導教員や学生チューターを交えた留學生との情報交換会を実施する。</p>	<p>○留学生研修旅行を実施した(3月実施済)。</p> <p>○留學生の要望、勉学上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留學生の小規模交流会を実施した(4月実施済)。</p> <p>○指導教員や学生チューターを交えた留學生との情報交換会を実施した(5月、2月実施済)。</p> <p>○実社会で活躍中の留學生OBと在籍中の留學生との交流会を企画し、実施した(3月実施済)。</p>			<p>達成した</p>	<p>教務部</p>
<p>教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行う。</p> <p>学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を図る。</p> <p>情報セキュリティ運営体制に関し、定期的に第3者機関による監査を実施する。</p> <p>情報セキュリティ対策を適切に推進する。</p> <p>高専統一システムに係る環境整備を推進する。</p>	<p>適切な情報セキュリティ対策を推進する。</p> <p>○教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を年1回行う。</p> <p>○学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を講演会などを通じて実施する。</p> <p>○情報セキュリティ運営体制に関し、第3者機関による独自監査を原則として毎年度実施する。</p> <p>○各実施手順書を順次作成する。</p> <p>○年1回の独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努める。</p> <p>○年1回のパソコン・ソフトウェア検査を実施する。</p> <p>○平成30年度機構統一校内LAN導入に向けての準備を進める。</p> <p>○高専機構IT資産管理システムの導入推進を図る。</p>	<p>○教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行いコンプライアンス意識の向上を図った(8月実施済)。</p> <p>○学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を新入生オリエンテーション、特別講演会やLHRなどを通じて実施した(4月～実施中)。</p> <p>○IPアドレス指定による教員業務用パソコンの入力管理システム構築とその運用の徹底を行った(4月～実施、10月完了)。</p> <p>○Windows XP OSのサポート終了に際し、新OSの登録状況と旧OSの扱いに関する調査を実施し、情報システムのセキュリティ管理に努めた(6月実施済)。</p> <p>○年1回の情報セキュリティ運営体制に関する第3者機関による独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努めた(12月実施済)。また、その結果をもとに実施手順をより簡潔にした情報セキュリティガイドを作成した。</p> <p>○高専機構IT資産管理システムによる年1回のソフトウェア検査を実施し、全てのパソコンの登録に努めた(6月・1月に実施済)。</p> <p>○平成30年度高専機構統一ネットワークの調査(5月、10月)に対応し、ネットワークの構成を高専機構の基本方針に沿った形で見直した。</p> <p>○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、全教職員の93%が「情報セキュリティポリシー」や「情報セキュリティに関する研修会」を通じて情報セキュリティへの意識が向上したことを確認した(2月実施済)。</p> <p>○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、全教職員100%が学生の個人情報の取り扱いについて適切に日頃から配慮を行っていることを確認した(2月実施済)。</p>	<p>○機構本部の情報セキュリティポリシーが変更される可能性があるため、順次修正の必要がある。</p>	<p>○実施手順や情報セキュリティガイドは定期的に見直し、順次修正する。</p>	<p>達成した</p>	<p>情報セキュリティ委員会 情報管理室</p>